

令和7年度 第1回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和7年8月20日(水)
開会 午後3時00分 閉会 午後4時00分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄(議長)
小松市教育委員会
教 育 長 山本 民夫
委 員 中惣 恭子
委 員 村井 啓介
委 員 浅蔵 一華
委 員 表 幹也

(事務局関係)
総合政策部長 藤井 勝司
総合政策部 総合政策課長 太田 司
総合政策部 総合政策課主査 秋野 力
教育委員会事務局 事務局長 長谷川 巖
教育委員会事務局 教育庶務課長 中川 久美子
教育委員会事務局 学校教育課長 新名 孝
教育委員会事務局 生涯学習課長 中屋 清志
小松市立高等学校 事務長 村田 篤哉
- 4 討議事項 ・小中学校配置最適化について
・市立高校改革の検討について

5 会議の経過及び発言

○開 会

○宮橋市長あいさつ

- ・これからの時代の中で一番の課題になるのが少子化への対応であり、学校の様々な点に影響を及ぼすことは間違いない。その中でいかに教育の目的を達成していくかが重要になってくる。
- ・本市は人口10万人を維持してきたが、子供の数は確実に減ってきている。これまで中山間地域を中心に起こっていたことが、ほぼ全市でそういった状況になってきている。
- ・こういった時代の中でも子供たちが本市で教育を受け健やかに成長していくために、今回の議題を選んだ。どういう教育環境を整備していくべきかに主眼を置いて議論できればと思う。

○討議事項 1

・小中学校配置最適化について

<議長>

- ・議題「小中学校配置最適化」について説明をお願いしたい。

<教育委員会事務局 中川教育庶務課長> (別添資料 1 に基づき説明)

<議長>

- ・既存校舎を使いながらというのが原則になると思うが、新設も含め、学校の規模や設置地域など、広く市民の皆様の意見を求めていくべき時期にきている。しっかりと周知し、認知いただくため、アンケートをさせていただければと思っている。その前に、本日お集まりの教育委員の皆様のご意見をいただきたい。

<表委員>

- ・大前提は子供中心の教育環境をとということで、色々な進め方を言われたが、それでいいと思う。
- ・1 学年に 2 クラス以上あった方が、クラス対抗での様々なことが可能となる。学校教育法でも 12～18 学級が標準となっていることもあり、これを基に考えることも大切。

<議長>

- ・現在、すでに 3 分の 2 の学校が学校教育法の標準学級数を下回っている状況にあり、いただいた意見を参考としたい。

<浅蔵委員>

- ・小規模校の中でも、小学校からメンバーが変わらず中学校に上がるところもある。9 年間クラス替えがないことになるため、人間関係でのつまずきなどに対しての対応が難しいのではないかな。
- ・高校や大学、社会において大人数で過ごすための経験として、最低限クラス替えができる人数が集まる配置や、中学校は 2 つ以上の小学校から集まるようにするなどの方向で進めた方がよい。

<村井委員>

- ・同じ小松市民でありながら、居住地域によって教育の質みたいなものに違いが出るというのはよくない。
- ・人間関係など、生き抜く力をどう培うかが重要なので、そういった点でも地域格差なく経験を活かせるようにすべきだと思う。
- ・築 50 年以上の校舎が多いということで、今後ある程度の投資は必要になると思う。今後こういう教育をするからこういった校舎や施設が必要であるというような、中長期

のビジョンを策定して進めるべき。

<中惣委員>

- ・大規模校、小規模校双方にメリット、デメリットがあると思う。
- ・子どもの将来を第一に考え、地域の方や保護者に納得いただけるよう、きめ細かく丁寧な説明が必要。

<議長>

- ・子どものことなので保護者にはかなりデリケートなところが出てくると思う。資料や説明は丁寧に対応していく。
- ・本市で行いたい教育があり、そのために必要な学校の規模があるなどの説明を明確にできるよう、教育大綱を中心により具体的な内容を検討していく必要があるため、教育委員の皆様にもまた相談させてほしい。

<山本教育長>

- ・決して少人数の学校を否定するわけではないが、学問だけではなく、人間関係を学ぶことも学校教育では大事なことである。今の時代、学問の学び直しの方法は多々あるが、人間関係の学び直しというのは難しい。

<議長>

- ・本日いただいた意見を参考にしながら、本市での進め方を検討したい。
- ・第1弾として、アンケート調査を8月中に始める予定なので、結果をまた共有させていただく。

○討議事項2

- ・市立高校改革の検討について

<議長>

- ・議題「市立高校改革の検討」について説明をお願いしたい。

<小松市立高等学校 村田事務長> (別添資料2に基づき説明)

<議長>

- ・今回の検討の根底にもやはり少子化ということがあり、また、小中学校と同様に施設の老朽化の課題もある。
- ・女子高から始まった市立高校だが、女子生徒の教育の充実という点では、当初の目的を一定程度達成し、共学化した。地元志向の高い人材育成という点でもある程度の効果が出ていると思うが、昨今の社会情勢等を鑑みると、果たしてそれだけでいいのかという検討が必要と考える。

- ・今回の検討に際していくつか試案も言ってもらったが、校名や立地も含め、学校を設置する意義など、抜本的な改革についてあらゆる方向から検討すべきであり、忌憚のないご意見をお願いしたい。

<中惣委員>

- ・以前の総合教育会議の議論にあったスクールバスの新設についてはどうなったか。

<議長>

- ・らく賃パスポートの対象を拡大し定期路線の利用促進を図ることとしたので、スクールバスの新設はない。ただし、根本的な解決には至っていないので、市立高校の立地についても試案に含めて検討していくべきであり、場合によっては、駅に近いところに校舎を求めていくことも考えなくてはいけないと思う。

<中惣委員>

- ・以前、バスが満員で乗れないという話も聞いたが、解決されているのか。

<小松市立高等学校 村田事務長>

- ・現状、1 限目に間に合うバスは小松駅から 4 本出ている。今年度の学校評価アンケートでは意見はみられなかった。
- ・らく賃パスポートは、4 割弱くらいの生徒が買っている。残りの 6 割は、自転車や保護者の送迎。

<山本教育長>

- ・市立高校、工業・商業高校の生徒が一斉にバスに乗ると混み合うが、生徒たちの中で乗るバスの時間帯やルートなど、うまくすみ分けができていそうだ。また、最近は保護者の送迎も増えている。
- ・以前、市立・工業・商業高校の PTA が協力してスクールバスを動かすという話もあったが、費用対効果を考えると、親が送迎した方がいいということになった。
- ・友達と話しながら歩いて帰りたいという生徒もいる。

<議長>

- ・通いやすさは間違いなく重要な視点になってくる。小松駅から徒歩圏内の立地も重要な要素と感じている。

<村井委員>

- ・南加賀地区の公立高校の定員割れが目立つ中、市立高校は維持されている。
- ・改革の趣旨は、より募集が増え、活躍できる人材を育てる高校を目指すことなので、小中学校とは違い、尖った特色ある教育を打ち出すべき。

- ・例えば語学に特化する、あるいは芸術やスポーツに特化し、それぞれの進路も作り出せれば、より熱意や活気を持った生徒の入学につながるのではないかな。

<議長>

- ・現在も英語の教科の充実や芸術、ハンドボールなどで活気を得ているが、その他の尖った部分を、学科もしくは部活として設けることも今後検討すべきと思う。最終的には、市が高校を設置する意義というところにつながってくる。

<村井委員>

- ・甲子園に出場していた市立船橋高校も同じ市立。どんな取り組みをされているのか、全国的に調べてみては。

<浅蔵委員>

- ・市立高校には芸術コースがあるものの、学区制がなくなった今、県立工業高校に行く生徒が多い。
- ・芸術系の大学に進学する場合、学校のデッサンだけでは足りず、それを補うために金沢にあるデッサン系の塾に通っている。
- ・市立高校だけでデッサンもできて、共通テストの点数も取れるくらいのことができる芸術コースになるとよい。
- ・また、学科を新設するなら、何ができるかわかりやすいネーミングが必要と思う。

<議長>

- ・人事にも絡んでくる話。教員を市で雇っていないということも、尖った部分を作るという面では弱さになるので、人事体制についても検討していく必要がある。

<表委員>

- ・福井県の啓新高校は、部活動にそば部がある。小松市の未来の人づくりという意味でも、トマトやうどんなどに特化した部活動があると、地域とのつながりができるのではないかな。

<議長>

- ・学科ではなく、九谷焼や農業など、部活動として特色を持たせることもひとつの方法。

<山本教育長>

- ・小松市に高校が1つあることで、中学生にとって選択肢が1つあるという役割を果たしていたと思う。しかし、これから子供が減っていく中で、やはり市が設置する意味というものが必要。例えばWebデザインなど、地域の企業で戦力になるような人材の育成が必要ではないかな。

<議長>

- ・市が設置し運営する上では、地域に根差した学校、地域の人材育成の場などの視点が大事になってくるのではないかと。
- ・公立小松大学との関係性も含め、あらゆる角度から検討していきたい。
- ・今年度は実際に色々な調査を行うので、経過や結果を共有させていただく。
- ・教育が大きな曲がり角にきている時期だと思っている。今後も様々な点について議論していきたいので、よろしくお願いします。

以上

○閉 会